

**令和2年度Sport in Life推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)**

「楽しい運動遊び教室」

公益財団法人滋賀レイクスターズ

2021年2月12日

1. 事業の実施概要

事業概要

学区内の自治会単位で、近隣の都市公園を利用して、子どもとその保護者を対象に、運動遊びプログラムを提供する。専門家に加え、地域のスポーツボランティアも指導者として活用し、指導マニュアル作成、講習会の開催を行う。親子で来場してもらうことで、同行する保護者に向けた啓蒙を行い、健康意識および運動実施意欲の増進を行い、スポーツ実施の定着を図る。

実証フィールド	滋賀県大津市内 5学区(平野・瀬田東・堅田・滋賀・青山)の公園及びコミュニティセンター
代表団体	公益財団法人滋賀レイクスターズ
構成団体	<ul style="list-style-type: none">●大塚製薬株式会社ニュートラシューティカルズ事業部京都支店大津出張所●大津市自治連合会●公益財団法人大津市公園緑地協会●全国健康保険協会滋賀支部●株式会社滋賀レイクスターズ●びわこ成蹊スポーツ大学
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・大津市内の5学区 平野・瀬田東・堅田・滋賀・青山 在住の 4 歳～ 6 歳の未就学児・幼稚園に通っているが習い事はしておらず、人見知りで少し引っ込み思案な性格の子ども
プロジェクト実施内容	<p>○公園でできる簡単な運動遊びプログラム+@の提供</p> <p>学区内の自治会単位で子どもたちに身近な運動環境を提供するために、近隣の公園で、運動遊びプログラムを提供する。小人数～20名程度まで対応できるメニューを作成、可能な限り異なる内容のプログラムを実施</p> <p>また、同行する保護者に向けた啓蒙を行い、健康意識および運動実施意欲の増進を行う</p> <ul style="list-style-type: none">● 子供向けの簡単な運動遊びプログラムの提供→小人数～20名程度まで対応できるメニューを作成、可能な限り異なる内容のプログラムを実施→竹馬、ねことネズミ、ケンパ、手つなぎオニ、たるまさんが転んだなど● 保護者向けの運動等に関する啓蒙活動の実施→運動がもたらすメリット、朝食欠食のデメリットなどを参加者に啓発

1. 事業の実施概要写真

【ボール遊び】



【仲間遊び】



昔遊び



2. スポーツ実施頻度や実施意欲の改善効果(1)

効果検証の概要

ターゲット	方法	主な検証内容
子供	参加保護者に対するアンケート調査を実施。各回終了後に紙媒体及びオンラインにて回答を依頼した。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム評価 ・NPS※による事業評価 ・子どもの運動教室に参加したことによる <ul style="list-style-type: none"> ①運動に対する興味の変化 ②運動の継続意向

効果検証の結果

※NPS（ネット・プロモーター・スコア）とは顧客のロイヤルティや継続利用意向といった顧客の態度や推奨度を数値化する指標を指す。

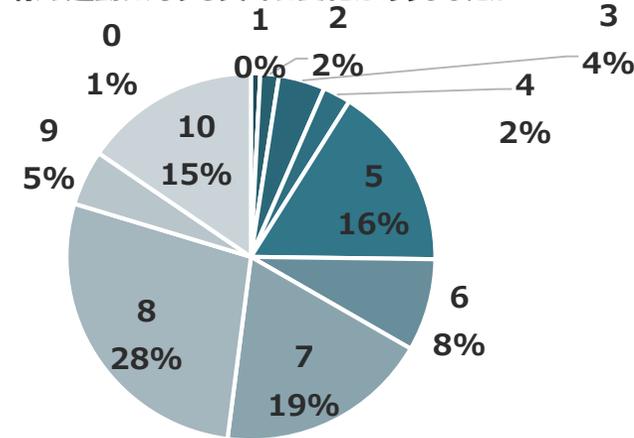
効果検証 ① 運動に対する 興味 の変化

- ・プログラム開始約1ヶ月後より、参加者へのアンケート項目に「運動教室に参加したことによって、お子様の運動に対する興味に変化はありましたか？」を追加し、123名より回答。
 - ・全体の75%（※）において、運動教室参加によって子どもの運動に対する興味に変化があったと回答した。よって、本事業実施による運動興味について一定以上の改善効果がみられたと判断することが出来る。
- ※平均点は7.06、変化の具合を数字で調査（0：まったく変化がない～10：とても変化があった）
※6点以上の回答が「変化があった」と判断することが可能な指標である。

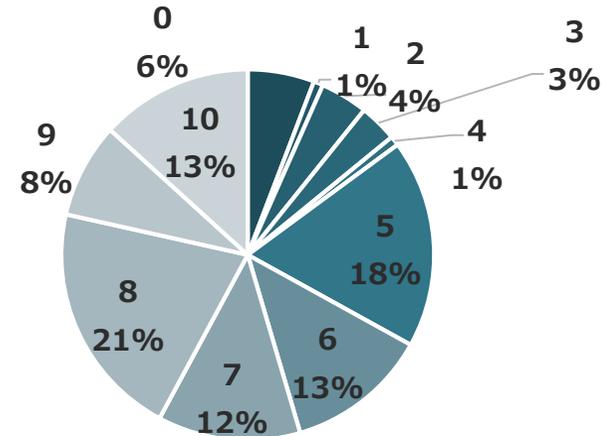
効果検証 ② 運動意 欲・習慣 の変化

- ・【**実施意欲の変化**】プログラム開始約1ヶ月後より、参加者へのアンケート項目に「運動教室に参加したことによって、教室以外の場所（自宅や近隣公園等）で運動を継続するようになりましたか？※」を追加し、123名より回答。（※運動を継続的に取り組むように変化したかどうか？という解釈）
 - ・全体の67%（※）において、運動教室参加によって教室以外の場所（自宅や近隣公園等）での運動継続に変化があり、意欲的に取り組んでいることが読み取ることが出来る。
- ※平均点は6.46、変化の具合を数字で調査（0：まったく変化がない～10：とても変化があった）
※6点以上の回答が「継続に変化があった」と判断することが可能な指標である。
- ・【**実施習慣の変化**】また、同アンケートにおいて、「継続的に取り組んでいる種目とお子様の反応」について自由記述にて回答を得た。取り組んでいる種目には「ボール遊び」や「鬼ごっこなど」本事業にて展開したプログラムの内容があり、また「この教室をきっかけにスクールに入った」という回答もあった。子供の反応についても、「楽しんでいる」「前向きに取り組んでいる」「積極的になった」といった変化が感じられる回答が多々を占めた。

運動教室に参加したことによって、
お子様の運動に対する興味に変化はありましたか？



運動教室に参加したことによって、
教室以外の場所で運動を継続するようになりましたか？



2. スポーツ実施頻度や実施意欲の改善効果(2)

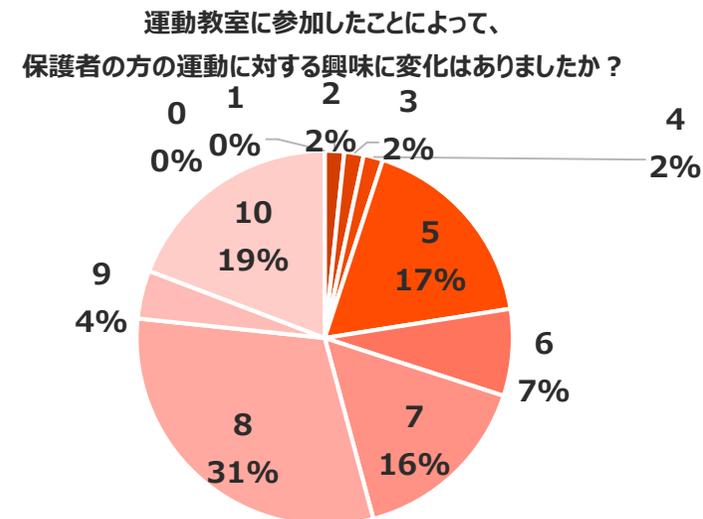
効果検証の概要

ターゲット	方法	主な検証内容
女性（保護者）	参加保護者に対するアンケート調査を実施。各回終了後に紙媒体及びオンラインにて回答を依頼した。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム評価 ・NPSによる事業評価 ・運動教室に参加したことによる <ol style="list-style-type: none"> ①保護者の運動に対する興味の変化 ②保護者の運動実施意向 ③保護者の運動促進要因

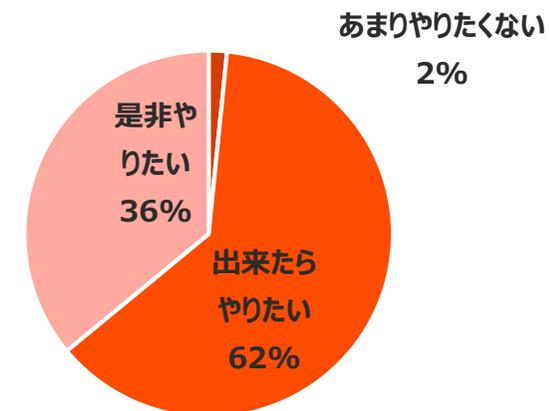
効果検証の結果

効果検証 ③ 運動に対する興味の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム開始約1ヶ月後より、参加者へのアンケート項目に「運動教室に参加したことによって、保護者の方の運動に対する興味に変化はありましたか？」を追加し、123名より回答。 ・全体の77%（※）において、運動教室参加によって保護者の運動に対する興味に変化があったと回答した。よって、本事業実施による運動興味について一定以上の改善効果がみられたと判断することが出来る。 ・※平均点は7.34、変化の具合を数字で調査（0：まったく変化がない～10：とても変化があった） ※6点以上の回答が「変化があった」と判断することが可能な指標である。
--	---

効果検証 ④ 運動実施意向	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム開始約1ヶ月後より、参加者へのアンケート項目に「保護者の方は今後、運動・スポーツをやりたいと思うか？（1:是非やりたい、2:出来たらやりたい、3:あまりやりたくない、4:やりたくない）を追加し、123名より回答。 ・「やりたい」と答えた保護者が【全体の98%】となり、本事業による保護者への参加意向効果も確認することが出来た。
-----------------------------------	--



保護者の方は今後、運動・スポーツをやりたいと思うか??



3. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

スポーツ実施改善要因の分析結果概要

ターゲット	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（検証結果）
子供	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的に遊べる場所がない ・危険な場所、人がいる ・通しやすい場所に教室がない <p>【運動が苦手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をしたら良いか分からず外遊びをしない ・遊ぶ場所が限られたり、マンネリ化することで、多様な動きが習得できない ・一緒に遊ぶ友だちがいないため外に出ない ・家の中で遊ぶことが好き 	<p>【環境】</p> <p>・「仕事や家事が忙しくて遊ぶ時間が取れない」「場所がない」「仲間がいない」といった、子供にとって直接的な原因とは考えにくい外部要因が運動機会を妨げていることが理解することが出来た。</p> <p>【運動が苦手】</p> <p>・参加者には運動が「不得意」という子供もいたが、それよりも運動が「好き」という子供が多く、「不得意を得意」にすることよりも、「好きを更に好き」にして、運動に対する興味の変化や自宅や近くの公園において継続的に運動に取り組んでもらえるようなプログラムの提供が促進要因につながるのではないかと考察した。</p>
女性	<p>【保護者の負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎の負担が大きい ・仕事、家事で疲れて付き添いが大変 ・他にすることがあり付き添いができない ・保護者の係、当番の負担を避けたい ・教室参加は費用負担が大きい <p>【運動の効用を知らない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を得る場所がない ・文章のみで上手く伝わってこない <p>という原因が指摘されている。</p>	<p>【保護者の負担】</p> <p>・仕事や家事による時間が取れないことや兄弟の世話のため十分に面倒をみる事が出来ないといった意見はあったが、送迎の負担といった理由が阻害要因となることは特定されなかった。</p> <p>【運動の効用を知らない】</p> <p>・保護者における運動実施状況はおおむね芳しいものでなく、運動実施意向も非常に高かった。</p> <p>⇒本事業のようなプログラムの提供ならびに機会の創造を地域スポーツクラブが担うことがスポーツ実施促進要因となり得る可能性を示唆</p>

3. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

スポーツ実施改善要因の分析結果詳細

ターゲット
①
子供

- “運動教室へ参加すること”を要因とする運動への興味の変化と運動継続に関するクロス集計（右表）より、2項目における相関は強く、本事業のような取り組み※が子供における運動に対する一定以上のスポーツ実施改善ならびに促進効果を与えていると推定。
（※本事業のような取り組みとは、「運動機会の提供」「運動場所の確保」「遊びかたのレクチャー」「専門的スタッフによる技術提供」を指す）
- 促進効果の要因としては、「複数学年の児童参加による交流の場やコミュニティの創造」が考えられ、本プログラムへの参加から「運動の楽しさ」や「新しい遊びの発見」などがあつたという自由記述回答が複数見られた。
⇒気軽に参加できる「遊び場」の機会提供と、自宅などでも取り組めるプログラムの実践が子供の運動への取り組み意欲を更に促進させる可能性

ターゲット
②
女性
(保護者)

- 女性（保護者）における運動に対する実施状況や意向は芳しくなく、むしろ取り組みたいという意向が強い。
- 関連して、運動教室に参加したことによる保護者の運動に対する興味の変化について、「0:まったく変化がない～10:とても変化があつた」の11段階にて調査を行った結果、平均点は【7.34】となり、保護者における運動に対する興味についても、一定以上の心理的变化があつたことが明らかになった。
- 運動を促進させる要因（するあるいはしたいと思う理由）としては、右表の通り「運動不足解消」「健康・体力増進」「ストレス解消」をキーワードとした、親子で取り組めるプログラムやコンテンツの開発が求められる。
⇒ 親子で運動を楽しむことが出来、なおかつ成人女性にとっても最善の機会となる運動プログラムを提供することで、地域にとって必要不可欠となる総合型スポーツクラブとしての存在を目指すことが重要

表 運動に対する興味の変化と運動継続意向のクロス集計(%)

運動に対する興味の変化はあつたか？	“運動教室に参加することで”教室以外の場所で運動を継続するようになったか？											
	得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	1.7	1.7	10.8
9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0
8	1.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	3.3	15.8	2.5	1.7
7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	6.7	7.5	1.7	0.8	0.0
6	0.8	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.8	3.3	0.8	1.7	0.0	0.0
5	1.7	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	10.8	0.8	0.8	0.8	0.0	0.8
4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.8	0.0	0.8	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「0:まったく変化がない～10:とても変化があつた」
※相関係数=.704**, p**<.01

表 保護者の方が運動・スポーツをする、あるいはしたいと思う理由
(※複数回答可)

項目	n	%
仲間との交流として	17	13.6
健康・体力増進のため	90	72.0
ストレス解消として	44	35.2
家族とのふれあいとして	38	30.4
楽しみとして	39	31.2
精神修養のため	6	4.8
運動不足解消のため	94	75.2
美容・肥満解消のため	38	30.4

事業継続や 横展開に向けた ポイント、課題

- 事業継続に際して必要な要素は主に次の3点であると考えられる。
 - ① 財源確保（スポンサー獲得、近隣市町への補助事業化の打診等）
 - ② 指導者確保（スポーツボランティア登用、育成制度の構築等）
 - ③ 会場選定（実施時期やリスク度合いに応じた会場検討、ターゲット近隣会場かつ屋内が理想的）
- 自治体を巻き込んだ事業展開はプロモーションや会場選定、スムーズな事業進行において奏功していることから、ステークホルダーへの事前の案内と協力依頼、関係各所との調整を経たうえでの事業実施は必須である。
- 集客面では、費用対効果を考慮しながら、足を使って幼稚園等への案内実施等、直接的なアプローチができた点はポジティブな側面。大々的な広告展開等マスメディアを通じてリーチできていない層にもアプローチできればなお良かった。

次年度以降の 事業継続、 横展開の計画

- 次年度以降については、本事業の実施を近隣市町に打診し、当該地域の幼児の運動機会提供を検討する。もしくは、スポンサーを募り予算を獲得したうえで事業化する展開も検討しており、滋賀県内各市町に後援いただき、各地1回ずつ開催をするなど次善策として検討していきたい。
- 別途、幼児向け体育あそびスクールの展開を検討しており、スポーツスクール運営実績と今回の幼児向け運動あそびプログラムを掛け合わせた内容とする予定。本事業においても、保護者から継続実施、スクール実施の要望を頂戴していることもありニーズを把握できていることも踏まえて前向きに進めていく計画。

今後の事業展開に 向けて期待される sport in Life プロジェクト における取組

- 試験的に実施している各事業の中で成功したケースについて、全国各地で横展開しやすいよう委託事業、補助事業で予算をつけていただくことを検討願いたい。（財源確保）
- また、今回同様、スポーツに関連する社会課題を解決するようなイメージの事業を公募されることで、民間のアイデアを用いて解決に近づくことができると考える。（財源確保）
- 国内外問わず、先進的なスポーツの取り組みに関する情報を収集されたうえで、地域のスポーツ団体等へ展開いただくことで日本国内での横展開、アレンジなどによる新規事業化などに結びつく事例が増えると日本スポーツ界に資するのではないかと。（先進事例共有）